

■殺虫剤：農業用

ネオニコチノイド系

アドマイヤー®顆粒水和剤

登録番号：20342
 毒性：劇物
 消防法：—
 有効年限：4年

成分 イミダクロプリド……50.0%
 物理的・化学的性状 褐色水和性細粒

包装：100 g × 20 500 g × 4

◆特長

- 浸透移行性に優れており、アブラムシ類、アザミウマ類などに対して低用量で優れた防除効果を発揮します。
- 顆粒水和剤なので、粉立ちが少なく溶けやすいため、使い易い薬剤です。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを 含む農業の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	500倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	移植2日前 ～移植当日	1回	灌注	3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で の散布は2回以内)
	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	500～ 1,000倍					
小麦	アブラムシ類	15,000倍	60～150ℓ / 10a		2回 以内	散布	3回以内 (種子粉衣は1回 以内、散布は2回 以内)
とうもろこし		10,000～ 15,000倍	100～300ℓ / 10a				3回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 2回以内)
		160倍 80倍	3.2ℓ /10a 1.6ℓ /10a				
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ ケシキスイ類 ゴマダラカミキリ成虫 コアオハナムグリ コナカイガラムシ類 アカマルカイガラムシ コナジラミ類	10,000倍	200～700ℓ / 10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
	ミカンキジラミ	5,000倍					
	アザミウマ類	5,000～					
	カメムシ類	10,000倍					
りんご	カメムシ類 リンゴワタムシ	5,000倍		収穫3日前 まで	2回 以内		2回以内
	アブラムシ類	10,000～ 15,000倍					
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	10,000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数	
う め す も も	アブラムシ類	10,000倍	200~700ℓ / 10 a	収穫21日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
	コナカイガラムシ類	5,000倍		収穫3日前 まで				
な し	アブラムシ類	5,000~ 10,000倍						アブラムシ類
	カメムシ類							
も も	アブラムシ類	10,000倍		モモハモグリガ カメムシ類	5,000~ 10,000倍			
	モモハモグリガ カメムシ類							
ネ ク タ リ ン	アブラムシ類	5,000~ 10,000倍		モモハモグリガ カメムシ類	10,000倍			収穫14日前 まで
	モモハモグリガ カメムシ類							
ぶ ど う	コナカイガラムシ類	5,000倍		収穫21日前 まで	5,000~ 10,000倍			
	フタテンヒメヨコバイ	10,000倍						
	アザミウマ類	5,000~ 10,000倍						
か き	コナカイガラムシ類	5,000倍	収穫7日前 まで	10,000倍	3回 以内			
	アザミウマ類	10,000倍						
	カメムシ類	5,000~ 10,000倍						
マ ン ゴ ー	アザミウマ類	10,000倍	収穫14日前 まで	5,000~ 10,000倍	2回 以内			
パッションフルーツ	アザミウマ類		収穫7日前 まで					
ア テ モ ヤ	コナカイガラムシ類		収穫7日前 まで					
な す	アブラムシ類	5,000~ 10,000倍	100~300ℓ / 10 a	収穫前日 まで	2回 以内	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計2回以内)		
	コナジラミ類							
	アザミウマ類							
ピ ー マ ン とうがらし類	アブラムシ類 アザミウマ類	5,000~ 10,000倍	100~300ℓ / 10 a	収穫前日 まで	2回 以内	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布は2回以内)		
ト マ ト	アブラムシ類							
ミニトマト	コナジラミ類							
き ゅ う り	アブラムシ類	5,000~ 10,000倍	100~300ℓ / 10 a	収穫前日 まで	3回 以内	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計3回以内)		
	コナジラミ類							
	アザミウマ類							

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数		
すい か	アブラムシ類 アザミウマ類	5,000～ 10,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布 は3回以内)		
ズッキーニ	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類	10,000倍		収穫前日 まで					
メロン	コナジラミ類	5,000～ 10,000倍		収穫3日前 まで					
	アブラムシ類 アザミウマ類								
うり類 (漬物用)	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	10,000倍		収穫7日前 まで	2回 以内		3回以内		
にがうり	アザミウマ類			収穫前日 まで			2回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内)		
かぼちゃ	アブラムシ類			3回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)					
なばな				2回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内)					
はくさい				3回以内 (定植時までの処理 は1回以内、散布 は2回以内)					
キャベツ				3回以内 (育苗期の灌水及び 定植時の土壌混和 は合計1回以内、 散布は2回以内)					
かぶ			3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)						
ばれいしょ			オオニジュウヤホシテントウ	2,500倍		25ℓ /10 a	収穫14日前 まで	無人ヘリコプ ターによる散布	3回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内、植付 後は2回以内)
	アブラムシ類		5,000～ 15,000倍	100～300ℓ / 10 a					
			160倍	3.2ℓ /10 a					
	80倍	1.6ℓ /10 a							
さといも	アブラムシ類	10,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫前日 まで	散布				
さといも (葉柄)									

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数
かんしょ	アブラムシ類	10,000倍	100~300ℓ / 10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (植付前の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)
やまのいも				収穫14日前 まで			3回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)
てんさい	カメノコハムシ アブラムシ類 テンサイモグリハナバエ	300倍	ペーパーポット 1冊当り1ℓ (3ℓ/m ²)	定植時	1回	灌注	3回以内 (種子への処理又は 灌注は1回以内、 散布は2回以内)
	テンサイトビハムシ	300~ 500倍					
みょうが (花 穂)	カイガラムシ類	10,000倍	100~300ℓ / 10a	収穫21日前 まで	2回 以内	散布、但し 花穂の発生 期にはマル チフィルム 被覆により 散布液が 直接花穂に 飛散しない 状態で使用 する	2回以内
				収穫前日 まで			
みょうが (茎 葉)				みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収 穫しない場合に あっては開花期 終了まで			
ね ぎ	アザミウマ類	5,000倍		収穫14日前 まで		散布	3回以内 (定植時までの処理 は1回以内、散布 は2回以内)
たまねぎ		5,000~ 10,000倍					
すいぜんじな	アブラムシ類	10,000倍		収穫7日前 まで	3回 以内		2回以内
にんじん				収穫3日前 まで			
みしまさいこ				収穫30日前 まで			3回 以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数
豆 類 (種 実)	アブラムシ類	10,000倍	80～300ℓ / 10 a	収穫30日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)
豆 類 (未成熟、ただし、 未成熟そらまめを 除く)				収穫前日 まで			3回以内 (定植時及びは種時 の土壌混和は合計 1回以内、散布は 2回以内)
未成熟そらまめ				収穫14日前 まで			3回以内 (定植時及びは種 時の土壌混和は 合計1回以内)
レ タ ス				収穫3日前 まで			3回以内 (育苗期の処理は 1回以内、散布 は2回以内)
ほうれんそう				収穫前日 まで			3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)
み つ ば		収穫7日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	2回以内				
食 用 ゆ り		5,000倍	収穫前日 まで	3回 以内	3回以内		
こ ん に や く	10,000倍	収穫21日前 まで	2回 以内	3回以内 (培土時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内)			
アスパラガス	アザミウマ類	5,000倍		収穫前日 まで	2回以内		
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	5,000～ 10,000倍	200～400ℓ / 10 a	摘採7日前 まで	1回	1回	
	ツマグロアオカスミカメ						
き く	アザミウマ類	5,000倍	100～300ℓ / 10 a	発生初期	5回 以内	5回以内	
げ っ き つ	ミカンキジラミ		200～700ℓ / 10 a				4回 以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数
乾田直播水稲	ウンカ類	種もみ 4～8kg当り 30～40g (40g/10aまで)	は種前	1回	種子塗沫 (未催芽期)	3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、本田での 散布は2回以内)
湛水直播水稲		種もみ 3kg当り 30～40g (40g/10aまで)			過酸化カルシウム 剤との同時湿粉衣	

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。種もみに処理する場合には、薬量を種もみの量に合わせて調製すること。
- (2) 湛水直播水稲に使用する場合は、次の項目を守ること。
 - ① 本剤を直接もみに処理すると薬害を生じる恐れがあるので注意すること。
 - ② 過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉衣すること。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守ること。
- (3) 稲（箱育苗）に使用する場合、軟弱徒長苗、おれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) 本剤を希釈倍数2500倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (5) 稲（箱育苗）に使用する場合、誤って過剰に使用したり、本剤使用后3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
- (6) 稲（箱育苗）に使用する場合、本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行かない、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (7) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - 1) ミツバチに対して影響があるので、関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
 - 2) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - 3) 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - 4) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - 5) 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - 6) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しない様に十分注意すること。
 - 7) 散布終了後は次の項目を守ること。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (8) ネクトリン及びすももでは品種により、葉に薬害を生じる場合があるので注意すること。
- (9) 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (10) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。

- 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
- 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (11) マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法（人工授粉、植物ホルモンなど）で授粉作業をすること。
- (12) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (13) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐きださせ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後の水管管理に注意すること。
- (3) 空中散布（無人ヘリコプターによる散布）で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。